

第2編 準備書に関する審議経過及び修正内容

第1章 公告・縦覧の概要

準備書の公告・縦覧は表 1-1 に示す内容で行った。準備書に対する住民等の意見はなかった。

表 1-1 準備書の公告・縦覧の概要

公告日	平成 28 年 9 月 21 日(水)
縦覧期間	平成 28 年 9 月 21 日(水)から平成 28 年 10 月 20 日(木)
縦覧場所	長野県環境政策課 長野県松本地方事務所環境課 松本市環境政策課 松本市奈川支所 松本市安曇支所 松本市波田支所 東筑摩郡山形村 東筑摩郡朝日村
意見募集期間	平成 28 年 9 月 21 日(水)から平成 28 年 11 月 4 日(金)
意見提出先	東京電力パワーグリッド(株) 東西連系線長野建設事務所
意見の提出	なし

第2章 準備書に対する知事意見についての事業者の見解

準備書に対する知事の意見及び事業者の見解を表 2-1(1), (2)に示す。

表 2-1(1) 準備書に対する知事の意見及び事業者の見解

知事の意見 (原文)	事業者の見解
全般	
1 環境影響評価制度の趣旨を踏まえ、事業者が実行可能な範囲で最大限の環境保全に取り組むことが分かるように、環境影響評価書（以下「評価書」という。）の作成に当たっては、丁寧かつ適切な記載を行うこと。	1 環境影響評価制度の趣旨を踏まえ、事業者が実行可能な範囲で最大限の環境保全に取り組むことが分かるように、評価書の作成に当たっては、丁寧かつ適切に記載しました。
事業計画	
2 鉄塔の基礎工事に伴い発生する残土の処理計画について、残土処理場の場所の選定方針を含め、評価書において具体的に記載すること。	2 残土処理は土砂流出が発生しないよう、処理場をなるべく広い平坦地や窪地等に分散させるとともに、盛土高さを低くするよう計画し、その旨を評価書に記載しました。
3 評価書において、鉄塔の基礎の深さ、形状等が分かる図を追加すること。また、鉄塔の設置場所によって基礎の形状等が異なる場合は、その考え方を示すこと。	3 鉄塔の基礎の深さ、形状等が分かる図、および適用する基礎形状（深礎基礎、杭基礎、マット基礎）の考え方を評価書に記載しました。
騒音、振動、低周波音	
4 事業実施区域及びその周辺地域が静穏な地域であることを踏まえ、工事の進捗、使用する建設機械や騒音等の状況を、具体的な数字を用いて住民に分かりやすく発信するなど、積極的な情報公開に努めること。	4 具体的に数値を把握している場合はその数値を評価書に記載しました。なお、低周波音については事後調査の中で数値を把握する旨を評価書に記載しました。 また、工事の進捗、使用する建設機械や騒音等の状況を現場に掲示するなど、地域住民への情報発信に努める旨を評価書に記載しました。
5 建設作業に伴う騒音については、出典を示した上で低騒音型建設機械を明確にして、予測評価を行うこと。	5 建設作業に伴う騒音については、出典を示した上で低騒音型建設機械を明確にし、予測評価を行い、評価書に記載しました。
地形地質	
6 事業実施区域には、境峠断層に並行する区間など地盤状態が悪いと考えられる場所があるため、地形・地質を環境影響評価項目として選定し、ボーリングデータ、最新の地質図、境峠断層に係る文献等を踏まえて、事業の実施に伴う土地の安定性への影響を適切に予測評価すること。	6 事業実施区域には、境峠断層に並行する区間など地盤状態が悪いと考えられる場所があるため、地形・地質を環境影響評価項目として選定し、ボーリングデータ、最新の地質図、境峠断層に係る文献等を踏まえて、事業の実施に伴う地形、地質、土地の安定性への影響を適切に予測評価し、その旨を評価書に記載しました。
7 工事の実施に当たっては、細かな断層、亀裂などが多い場所であることを踏まえ、地すべりを誘発させないよう排水処理等に十分留意すること。また、供用時において近傍で地震活動等が起こった場合には、適切に保守管理を行うよう努めること。	7 工事の実施に当たっては、細かな断層、亀裂などが多い場所であることを踏まえ、地すべりを誘発させないよう排水処理等に十分留意します。また、設備完成後の地震発生時においては、適切な点検を行うこととし、その旨を評価書に記載しました。

表 2-1(2) 準備書に対する知事の意見及び事業者の見解

知事の意見（原文）	事業者の見解
植物，動物	
8 動植物の概況の記載については，長野県全体の状況でなく，この地域の特徴を踏まえた記載となるよう，評価書において修正すること。	8 動植物の概況の記載については，長野県全体の状況でなく，この地域の特徴を踏まえた記載となるよう，評価書において修正しました。
9 環境影響評価準備書に記載のアズマザサは全てクマイザサと考えられるため，評価書において該当箇所を適切に修正すること。	9 環境影響評価準備書に記載のアズマザサはクマイザサと同定し，評価書で該当箇所を適切に修正しました。
10 植生調査票について，評価書において調査地点を地図で確認できるように参照ページを示すとともに，標高を追記すること。	10 植生調査票について，評価書において調査地点を地図で確認できるように参照ページを示すとともに，標高を追記しました。
11 盛土・切土を行う箇所の緑化については，表土に含まれる埋土種子を利用するなど，現地に生育する植物を活かした緑化復元を行うこと。	11 盛土・切土を行う箇所の緑化については，表土に含まれる埋土種子を利用するなど，現地に生育する植物を活かした緑化復元を行うこととし，その旨を評価書に記載しました。
12 事業実施区域及びその周辺区域では，オオタカ，クマタカなど希少猛禽類のつがいが多く確認されているため，この地域におけるこれらの種の生活サイクルを十分に踏まえた上で，繁殖期の工事の中断や工程の調整等の環境保全措置を適切に講じること。また，猛禽類の生息状況は毎年変化するため，工事期間中における事後調査を確実に実施し，その状況を踏まえて環境保全措置を検討すること。	12 事業実施区域及びその周辺区域のオオタカ，クマタカなど希少猛禽類の繁殖期における工事中断や工程調整等の環境保全措置を適切に講じるため，この地域におけるこれらの種の生活サイクルを評価書に追加しました。 また，猛禽類の生息状況は毎年変化するため，工事期間中における事後調査を確実に実施し，その状況を踏まえて環境保全措置を検討することとし，その旨を評価書に記載しました。
13 ゴマシジミについては，シワクシケアリと食草であるワレモコウの3者の関係が重要となるため，地域の専門家の助言や最新の研究内容等を踏まえ，適切に環境保全措置を講じること。また，工事の実施に伴うゴマシジミの個体数の変化や，移植後のワレモコウの状況について，事後調査で的確に把握すること。	13 ゴマシジミの食草であるワレモコウについては専門家の助言を踏まえ，移植前にアリの生態調査を行い，できる限りハラクシケアリの生息地付近に移植します。また，ゴマシジミの事後調査では，ゴマシジミの個体数の変化に加え，移植後のワレモコウの状況を的確に把握することとし，その旨を評価書に記載しました。
14 鉄塔の敷地等が草地化すると鹿の餌場となるおそれがあるため，県内における鹿による被害の状況に鑑み，鹿の餌を増やさないよう可能な対策を検討すること。	14 鉄塔の敷地等が草地化すると鹿の餌場となるおそれがあるため，鹿の餌を増やさないよう防草シートの設置などの対策について検討することとし，その旨を評価書に記載しました。
景観	
15 野麦峠オートキャンプ場は重要な眺望地点であることから，評価書において適切な構図でフォトモンタージュを作成し，事業による影響を的確に判断できるようにすること。	15 野麦峠オートキャンプ場は重要な眺望地点であることから，適切な構図でフォトモンタージュを作成し，事業による影響を的確に判断できるように，評価書に記載しました。

第3章 準備書の修正内容

環境影響評価に対する環境保全の見地からの意見を踏まえ、環境影響評価準備書の見直し及び修正を行い、その内容を評価書に反映させた。準備書の修正内容を表3-1に示す。

表3-1 準備書の修正内容

評価書における項目	修正内容
第2章 対象事業の名称、種類、目的及び内容 2.2 対象事業の目的、内容 2.2.3 対象事業に係る工事計画の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・鉄塔の基礎工事で発生する残土の処理計画について、残土処理場の場所の選定方針を含め、具体的に記載した。 ・鉄塔の基礎の深さ、形状等が分かる図を追加した。 ・適用する基礎形状の考え方を記載した。
第3章 対象事業を実施する区域及びその周辺の概況 3.1 自然的状況 3.1.5 動植物の生息又は生育、植生及び生態系 3.1.5.1 植物 3.1.5.2 動物	<ul style="list-style-type: none"> ・各データの転記ミスを修正した。 ・動植物の概況の記載について、対象事業実施区域周辺の特徴を踏まえた記載となるよう修正した。
3.1.4 地形及び地質の状況 3.1.4.2 地質の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・地質図を長野県デジタル地質図(2015)に修正した。
3.3.4.3 活断層と想定荷重	<ul style="list-style-type: none"> ・対象事業実施区域周辺の活断層および地震に関する主な文献を修正した。
第4章 環境影響評価の項目並びに調査・予測・及び評価の方法	<ul style="list-style-type: none"> ・地形・地質を評価項目として選定した。
第5章 調査、予測・環境保全措置・評価	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者が実行可能な範囲で最大限の環境保全に取り組むことが分かるように、表記を統一して記載した。
5.1 騒音	<ul style="list-style-type: none"> ・低騒音型建設機械の指定根拠と使用建設機械を追記した。 ・No. 194 鉄塔位置変更に伴い予測結果を修正した。
5.2 振動	<ul style="list-style-type: none"> ・No. 194 鉄塔位置変更に伴い予測結果を修正した。
5.3 地形・地質	<ul style="list-style-type: none"> ・地形・地質を環境影響評価項目とし、予測評価を記載した。
5.4 植物	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書に記載のアズマザサは全てクマイザサであるため、該当箇所を修正した。
5.5 動物	<ul style="list-style-type: none"> ・クマタカ、オオタカの生活サイクルを追加した。 ・H28年度猛禽類調査結果を追加した。 ・H28年度渡り鳥調査結果を追加した。 ・H28年度ゴマシジミ調査結果を追加した。
5.6 生態系	<ul style="list-style-type: none"> ・準備書に記載のアズマザサは全てクマイザサであるため、該当箇所を修正した。 ・H28年度猛禽類調査結果を追加した。 ・H28年度渡り鳥調査結果を追加した。 ・H28年度ゴマシジミ調査結果を追加した。
5.7 文化財 5.7.2 埋蔵文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・一里塚古墳の試掘調査結果を追加した。
5.8 景観	<ul style="list-style-type: none"> ・野麦峠オートキャンプ場のフォトモンタージュを適切な構図で再作成した。 ・No. 194 鉄塔位置変更に伴い「鉢盛中学校」「古見地区」のフォトモンタージュを再作成した。
第6章 総合評価	<ul style="list-style-type: none"> ・地形・地質を環境影響評価項目として選定した。
第7章 事後調査計画	<ul style="list-style-type: none"> ・騒音の事後調査に合わせ低周波音の測定を追加した。
【参考資料】	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーリング柱状図を追加した。 ・準備書に記載のアズマザサは全てクマイザサであるため、該当箇所を修正した。 ・植生調査票に調査地点を地図で確認できるように参照ページを示すとともに、標高を追記した。